

報道機関 各位

黒崎アートプロジェクト ～金融機関での“ウォールアート”が完成しました～

黒崎アートプロジェクトでは“アートの力で黒崎を盛り上げる”をテーマに、令和3年度から黒崎地区においてアートイベントを実施しています。

今年度の企画である、全国でも珍しい「金融機関でウォールアート」がこのたび完成いたしました。

つきましては、ご多忙のこととは存じますが、取材方よろしくお願いいたします。

記

1 制作期間

令和5年2月18日（土）～3月12日（日）

2 制作場所

福岡ひびき信用金庫黒崎支店（北九州市八幡西区黒崎1丁目4-18）

3 主催

黒崎アートプロジェクト実行委員会
（熊手銀天街協同組合、九州国際大学、市などで構成される任意団体）

4 共催

北九州市

5 作品概要・取材対応

別紙をご覧ください



【問い合わせ先】

産業経済局 商業・サービス産業政策課
楠本、熊丸 TEL：582-2050

報道機関 各位

令和5年3月14日
黒崎アートプロジェクト実行委員会

黒崎アートプロジェクト “ウォールアート” が完成しました！

黒崎アートプロジェクト実行委員会は、“アートの力で黒崎を盛り上げる”をテーマに、地元商店街や九州国際大学、北九州市で組織する団体で、黒崎地区全体を美術館に見立て、シャッターアートなどの作品制作・展示を行っています。

このたび、新たな作品として、全国でも珍しい“金融機関でのウォールアート”が完成したのでご報告いたします。この作品は黒崎地区の歴史と名所を活かした当地ならではのデザインになっています。

1 作品概要

(1)制作期間：令和5年2月18日～3月12日

(2)デザイン：別紙1をご覧ください

(3)サイズ：縦3m×横8m

(4)制作者：宮本 みやもと だいすけ 大輔
滝本 たきもと けん と 建都(株)COLOR WORKS JAPAN)

(5)制作場所：福岡ひびき信用金庫 黒崎支店
(北九州市八幡西区黒崎一丁目4-18)

※制作者・実行委員長コメントは別紙2をご覧ください



2 コンセプト

江戸時代に長崎街道の宿場町として栄えた黒崎を通り、江戸まで歩いた“象”と、江戸時代の面影を残す黒崎の名所である曲里の松並木の“松”を描きました。

また、黒崎地区のイメージに合うよう、明るく暖かな色使いにしました。

3 撮影・取材対応

作品は自由に撮影可能です。

また、実行委員会への取材をご希望の場合は、下記「問い合わせ先」までご連絡ください。(制作者による現場での取材対応は行っておりません。コメントは別紙2をご覧ください。)

4 活動実績

令和3年度：シャッターアート制作（制作者5名・6作品）

令和4年度：ウォールアート制作（制作者1名・1作品）※本作品

北側デザイン



「黒崎の歴史と名所」を活かした象と松並木のイラスト。明るく暖かな色使いも黒崎をイメージしたもの。

西側デザイン



「住みやすいまち黒崎」をイメージした親子の象のイラスト。

黒崎アートプロジェクト令和4年度企画 ウォールアート制作
制作者・実行委員長コメント

制作者 みやもと だいすけ 宮本 大輔氏 コメント

この度、黒崎アートプロジェクト実行委員会様から依頼を受け、ウォールアートの制作をさせていただきました。

デザインした象と松の木は、実行委員会や学生の方々と話した中から生まれたアイデアで、江戸時代に黒崎地区を歩いた象と、江戸時代の雰囲気を残す黒崎地区の名所曲里の松並木をモチーフにしています。

また、黒崎地区は明るく温かみのある印象があったので、それを象徴するようにカラフルでメッセージ性のあるデザインにしました。

作品を見ていただきたいのはもちろんですが、作品をきっかけに黒崎地区に来ていただき、まちの様々なものを見ていただきたいです。

(参考：宮本 大輔氏 詳細)



(株)COLOR WORKS JAPAN 代表取締役。福岡県出身。平成28年パルルーブル美術館(作品展示、ライブペイント)アートフェア、博多座出演、福岡ソフトバンクホークス、SONYstore、資生堂コラボ企画など多数の実績。令和3年度に黒崎アートプロジェクトの企画で熊手銀天街の店舗にシャッターアートを制作。

たなか たいし 田中 大士 実行委員長 コメント

黒崎アートプロジェクトは“アートの力で黒崎を盛り上げる”をテーマに、黒崎地区全体を美術館に見立て、まちにアート作品を制作・展示する企画です。「黒崎は空き店舗が多いシャッター街」という印象を変えたいと思い、令和3年度からこの企画を始めました。

今年度は福岡ひびき信用金庫様にご協力いただき、黒崎支店の壁面にウォールアートを制作・展示させていただきました。

今回の作品で7作品目になり、“黒崎美術館”のコレクションは充実してきました。多くの方に当美術館の作品を見ていただき、黒崎地区のにぎわいづくりにつなげたいと思っています。